

2021年度地域活動事業部全国リーダー研修会報告

日時：2022年1月29日（土）9：00～13：00

会場：Web会議

1.開会のあいさつ

（公社）日本栄養士会の組織と地域活動職域管理栄養士・栄養士ビジョン（案）について（公社）日本栄養士会地域活動事業部推進委員会の海老原委員長より説明があった。

2.事業報告

1) 2022・2023年度地域活動事業推進委員について

2022年は改選の年になる。推進委員の予定は、佐野ちえみ、佐々木美和、遠藤由紀子、丸山成子、高信雅子、木村紀子、橋本通子、吉田隆子の8名の予定。

2) 2021年度事業報告（案）・2022年度事業計画（案）について

- ・栄養ワンダーは、6月～8月でオンライン開催の予定。
- ・2022年度全国栄養士大会は、7月8日～8月7日でオンライン（案）
- ・2022年度全国リーダー研修会は、2023年2月3日（金）、第38回公衆栄養活動研究会2月4日（土）の開催予定で会場は未定。
- ・ACD2022 アジア栄養士会議は、2022年8月19日～21日、パシフィコ横浜で開催予定。
- ・ブロック会議は、2022年10月22日（土）を予定。
- ・「日本栄養士会雑誌」管理栄養士の最前線で、5月、9月、12月が地域活動の担当。

3.基調講演「未来の地域活動に期待すること」

（公社）日本栄養士会会長／

神奈川県立保健福祉大学学長 中村 丁次氏
2021年12月に「東京栄養サミット2021」が開催された。岸田総理のあいさつで「栄養の力で人々を健康に、幸せにする」という思いを世界に広げるとスピーチされた。「栄養の力」についてはポイントが2つある。1つは「生命・生活・健康の基礎になる」である。過去の経験により栄養を発見し、日本は栄養の不足の

時代から高度経済発展による食事の欧米化と運動不足が、肥満と非感染性疾患（NCDs：生活習慣病）の発症の誘因となった。現在、栄養の二重負荷が課題となっている。60～70歳のギアチェンジをいつにするか見極めなくてはいけない。2つ目は「教育、ジェンダー、経済、環境等に影響を与え、幸福の基盤になる」。現在SDGsが実施されていく中、持続可能な食事が議論されている。日本人の食事は環境負荷が少なくプラネタリーダイエットに近い。

管理栄養士・栄養士は専門職としてリーダーシップを図ることが大切である。AIやロボットが栄養指導や献立作成をする時代となってきた。AIやロボットにないものは「認知的共感」であり、人として、これが行動変容を起こすことができるものである。

4.事例発表

1) 農業を考える栄養士

（公社）福井県栄養士会 野路 直美氏

料理教室を主宰していた母親を手伝い栄養士活動をおこなっていたが、嫁ぎ先が伝統的な農家であったため、農業について考えるようになった。現在の農業従事者が5年前に比べ22.4%減少し、高齢化が進んでいる。米の消費量は年々減少し同時に生産力も減少している。農業の問題を栄養士として考え、地域の人たちと連携して子育て支援教室や食育研修会を実施している。農業に関わることで地域の人とつながることができ、活動の広がりができた。

2) NPO法人による認定栄養ケア・

ステーションの活動

（公社）大阪府栄養士会 時岡 奈穂子氏

2013年任意の団体として栄養士4名からスタート。活動を通じ組織の必要性を感じ2016年特定非営利法人を立ち上げ、2019年から認定栄養ケア・ステーションに認定された。活動は「妊娠・出産」から「終い支度」まで幅広く、

地域の食育や介護食講座、オナカマ食べようプロジェクト等の他、地域ケア会議や訪問ケアなど介護保険事業、多職種の勉強会など幅広く活動をしている。管理栄養士は医療と福祉のシームレスな関係の中心にいると思う。生まれる前から旅立つときまで、365日24時間、生活を支え、個人のQOLが地域のQOLにつなげる、食べる喜びを暮らす喜びへお手伝いするために活動を続けていきたい。

3) 地域活動栄養士の特性を活かした活動

(公社) 沖縄県栄養士会 伊是名 カエ氏
一般社団法人トータルウエルネスプロジェクトオキナワの代表であり、管理栄養士&健康運動指導士&琉球料理传承人として「食&ウエルネス事業」を展開している。

沖縄県の健康問題は、30～60歳の働き盛り世代の死亡率が高いことである。そこで「健康経営優良法人2021認定要件」をもとに、「持続可能な健康経営」の企画を立て企業にアプローチをしている。例えば、定期健診をもとに社員の問題点を抽出し、昼食時に持参したお弁当をモニターに写しアドバイスをする研修会、社内の自動販売機の商品を健康が意識できる商品に交換するなど、会社全体に働きかけをしている。これからも栄養士として継続的な支援をおこなっていきたい。

5. グループワーク・意見交換会

テーマ：

- ①5年(10年)後の理想の地域活動はどうなっていたらよいかを考えてください。
- ②未来に向けて、今やらなければならないことはないでしょうか。また、すでに始めている事はありますか。
- ③仲間作り(会員を増やす)のために今やっていること、これからできることは何ですか。
- ④魅力ある理想の地域活動とはどんな活動ですか。
- ⑤全国規模で社会に向けてやったらよいと思うことはありますか。

上記の内容について事前アンケートをもとに各ブロックで話し合いを行い、各ブロックから発表を行った。近畿ブロックからは、地域に根

差した気軽に相談できる『かかりつけ栄養士』であること、そのためには、①地活だけでなく同職種のつながり②他職種の連携が必須で、個人でできないことも栄養士会という組織の中で活動を行うと実現ができやすい。コンビニなど新しい場所で栄養相談ができるとよい。すでにやっていることは、コロナ禍であるのでZoom、ホームページ等のWebを使っての情報共有やInstagramでの活動を発信している。課題としては、賃金が少ないことである。という内容で発表を行った。全国の発表のまとめは、結果が届いたら連絡をしたい。

(文責 地活 橋本通子)